特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビルI 5階
TEL 03-5213-4070 FAX 03-3556-5771
E-mail meet@peace-winds.org
www.peace-winds.org

ピースウィンズ・ジャパン
@PeaceWindsJapan

年次報告書 2012

2012/2/1-2013/1/31

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン

ひとりの覚悟が
難民の一生を変えていく。

1人でも多くの命を救いたい。

2013年2月、私はイラクを訪れました。
難民キャンプに行くと初心に返り、
はじめてイラクへ行った学生時代を思い出します。
あの時、欧米のNGOが数百人のスタッフを抱えて
何十万人もの難民を支援するのを見て、
私は衝撃を受けました。
当時の日本のNGOは、個人ボランティアの集まりのようで、
事業体としてのパワーに欠けていたからです。
このままでは、救えるはずの命も救えない…
そう感じた私は、自分が日本のNGOを変え、
1人でも多くの命を救おうと覚悟しました。

限界を決めない。

その頃よりイラクの治安は良くなっていますが、
世界では未だ紛争が絶えず、
多くの人びとが命を落としています。
食料危機に瀕し、
あるいは住む家をなくした人もたくさんいます。
海外だけでなく、東日本大震災のような
国内の大規模災害にも備えておく必要があります。
我々にできることはなんなのか。
NGOだからという限界を決めずに、
これまでの知識と経験をフルに活かし、
さらなる平和を目指して挑戦し続けます。

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン
代表理事兼統括責任者
大西　健丞

写真:イラク国内に作られたシリア難民キャンプでの生活物資の配布の様子

思いを届ける。世界を変える。
支援活動の3つの柱

「世界を変えたい」という思いを原動力に、ピースウィンズ・ジャパンは活動を続けています。
支援のプロを世界に派遣するピースウィンズ・ジャパンの活動の3つの柱をご紹介します。

緊急支援

スピーディーに

東日本大震災では
発生から2時間後に
出動を決定し、
翌日にはヘリコプターで
被災地へ向かいました。
また、1ヵ月の間に
約160トンの緊急支援物資を
配布しました。

大規模に

シリア難民支援では、
難民キャンプ内の
ほぼ全員分をカバーする
約2万人に、氷点下となる
冬を越すために必要な
緊急支援物資を配布しました。

復興・開発支援

支援が
届きにくい場所で

治安やアクセスの悪さから、
他の援助機関の支援が
届かない南スーダンの
ジョングレイ州では
189本の井戸を作り、
10万人に安全な水を
届けました。

住民の自立を促す

東ティモールでは
経済的な自立を支えるため、
コーヒー生産者への
技術支援を行っています。
参加農家は
10年前の10世帯から
今では520世帯に。
収穫されたコーヒーは
日本国内で販売します。

災害への備え

一人でも多くの命を
救いたい

災害時に、より迅速な
レスキュー活動ができるよう、
スタッフが専門家の
指導のもと、厳しい訓練に
励んでいます。
また、要救助者の
捜索に活躍する
災害救助犬の育成も
行っています。

自治体や企業との
防災協定を

今後、想定される
国内の大規模災害に備え、
物資やサービスの提供について
事前に協議をすることで、
迅速な支援につなげます。
静岡県袋井市、
東京都世田谷区・
葛飾区と防災協定を
結んでいます。

現場を奔走する支援のプロ

スタッフ インタビュー

世界のあらゆる場所で支援に携わり、
持続的な平和のために活動する
スタッフの素顔をご紹介します。

南スーダン事務所
現地事業責任者

樋口 博昭

1.事務所のあるボー郡からアユッド郡に向かうヘリコプターの中で 2.緊急支援物資の輸送 3.住民との話し合い

大学時代、恩師の一言をきっかけにNGOでの活動をはじめ、以来アフリカを中心に現場で18年支援活動をする樋口博昭。支援のプロとして、活動を続ける思いを聞きました。

50年後、この仕事がなくなればいい。

「大学生は何でも出来ます。思いっきりやりたい事をやって下さい」大学で一番最初の授業、ある先生の一言が樋口の今の活動につながっている。先生はこう続けた。「大風呂敷を広げなさい。そして必ずその風呂敷を畳みなさい」すぐに樋口は先生に弟子入り、その後フィリピン等に渡りNGO活動にのめりこんだ。そのまま卒業後も風呂敷を畳むことはなく、今も現場で支援活動を続けている。先生の言葉に衝撃を受け、研究室のドアをノックした時からずっと、樋口はがむしゃらに大きな夢を目指しながら進んでいる。夢は「この職を失う事」という。例えば50年後には授業で、昔は援助というものがあったんだと先生が話しているような、支援が必要の無い世の中になって欲しいのだ。

世界には、たくましく笑う、凄い人たちがいる。

大学卒業後、ウガンダで村落開発事業に携わっていた時、身近な人が次々に亡くなるのを目の当たりにした。自分には何も出来ないと、無力を感じ活動を止めようと思った事もあった。そんな中エイズ末期のおばあさんに出会った。痩せ細った彼女は亡くなる寸前、樋口に一言話しかけた。それが「ありがとう」という言葉だった。生きていることに誇りを持ち、全ての事に対し、ありがとうと言ったその人が忘れられないという。それから10年以上あらゆる土地で様々な人に出会ってきた。「現地の人は本当にたくましい。どんな困難の中でも笑っている人が1000人に1人くらいいる。そんな人には頭が上がらない」樋口はこれからも、そんな風に笑う人を、1人でも増やすため、活動を続ける。

樋口博昭　1995年 東北福祉大学社会福祉学部卒業後、アフリカを中心に支援活動に従事。在ウガンダ日本国大使館やNPOでのプロジェクト立ち上げなどを経て2010年PWJに入団。以後南スーダンで活動し2012年より南スーダン事務所 現地事業責任者に就任。

4歳の女の子を育てながらPWJで世界各地を飛び回る山本理夏に、支援のプロとしての気持ちをインタビューしました。

自分に必要とされてるのは、一緒に涙を流す事じゃない。

「昔から涙もろくて、映画でもすぐに泣いてしまうんです」と言う山本。1児の母でありながら、13年にわたりPWJで支援のプロとして世界を飛び回る。あかるい笑顔でハツラツと話す彼女に、「プロとは何か?」と聞いたとき、まず現場での意識の話が出た。「現場に立つと、意識が切り替わるんです」。現場に立つ時、変わり果てた故郷に絶望する人や、家族が亡くなり涙する少女の前で、もちろん泣いてはいられない。事態を見極め、どんな方法でどんなプロセスで解決するか、迅速に考え指示を出す。一緒に涙を流す事ではなく、その涙が流れないためにどうすればよいかを考えて動く。

1人では、世界は変えられないと思った。

山本は中学生の頃、学校のボランティアで老人ホームにおむつを届けた。それは学生が手作りした不格好な物で、とても使いやすい物ではなかったのに、受け取ったおばあちゃんは「ありがとう」と涙を流したという。それが、「人のために何かをしたい」と気づいたきっかけだった。その後大学院やNGOでの活動を経て、PWJに入ったあと、20ヵ国以上の現場に立った。それでも老人ホームのおばあちゃんに「ありがとう」と言われ、胸がいっぱいになった頃と、気持ちは変わらずにいる。ただその頃と大きく違う事は「1人では世界は変えられない」とハッキリと意識している事だ。「PWJのスタッフ、PWJを支援して下さる方々、一緒に活動する現地の方々、たくさんの力が合わさるからこそ、プロとして大規模に、必要な支援を届ける事が出来、変えられる世界がある」と山本は言う。

山本理夏　法政大学法学部卒業後、米国州立オハイオ大学に留学。2000年PWJに入団。東京事務所では、緊急対応全般を統括。事業の立ち上げや緊急対応準備にかかる連絡・調整を図るほか、現地への出張を通して状況の把握、方針の策定などを行う。

東京事務局
緊急対応部長

山本 理夏

4.ニジェールで地元住民と 5.東日本大震災直後、気仙沼に駆けつけた 6.家ではお母さんの顔になる 7.東アフリカ初動調査時のテント生活

2012年度の活動

私たちは「必要な人びとに、必要な支援を。」という思いを掲げ、1996年の設立以来、
支援が届きにくい場所にも迅速に、かつ長期的に支援を行っています。
2012年度は計11ヵ国で活動しました。

これまでに活動した地域
2012年度に活動した地域

イラク IRAQ
小学校改築支援／シリア難民支援

東北 MIYAGI, IWATE, FUKUSHIMA JAPAN
東北復興支援

モンゴル MONGOLIA
教育・子ども支援

アフガニスタン AFGHANISTAN
復興支援

ニジェール NIGER
食糧危機支援（2012年11月終了）

神石高原 HIROSHIMA, JAPAN
地域活性化

フィリピン PHILIPPINES
台風洪水被災者支援（2012年12月終了）

ハイチ HAITI
地震被災者支援（2012年7月終了）

ケニア KENYA
ソマリア難民支援

南スーダン SOUTH SUDAN
帰還民再定住支援
国内避難民緊急支援

スリランカ SRI LANKA
帰還民再定住支援

東ティモール EAST TIMOR
地域開発支援

2012年度の支援事業一覧

受益者総数 23,901世帯＋約58,934人

イラク			実施場所	受益者
復興支援	インフラ整備	小学校改築事業	ニワナ州アクレ郡・アルビル州・ドホーク州	5,346人
シリア難民支援	生活物資配布		ドホーク州	10,974世帯

ニジェール			実施場所	受益者
食糧危機支援	収入向上	キャッシュ・フォー・ワーク	ティラベリ州フィレンゲ郡	4,266世帯

南スーダン			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	水・衛生	井戸建設及び衛生・井戸管理研修	ジョングレイ州	43,606人
		トイレ建設・衛生研修		655人
国内避難民緊急支援	支援物資配布			3,836人

ケニア			実施場所	受益者
ソマリア難民支援	仮設住宅支援	仮設住宅の建設	ラガデラ県・ガリッサ県	279世帯

アフガニスタン			実施場所	受益者
復興支援	水・衛生	水資源調査	サリプル州	N/A

ハイチ			実施場所	受益者
地震被災者支援	インフラ整備	仮設教室建設	ポルトープランス郡	1,571人
		学校家具・学校備品・学用品の配布		
		キャパシティ・ビルディング講座 心理社会サポート講座 保健衛生向上講座、防災講座		

東ティモール			実施場所	受益者
地域開発支援	コーヒー生産者自立支援		エルメラ県・リキサ県	520世帯

スリランカ			実施場所	受益者
帰還民再定住支援	仮設住宅支援	仮設住宅およびトイレの建設	マナー県・ワウニヤ県	414世帯
	生計支援	農業・酪農・小規模ビジネスパッケージ配布	ムラティブ県	103世帯
	インフラ整備	灌漑施設整備（農業用溜池修復・拡張工事）	トリンコマレ県	392世帯
	農業支援	農業研修及び畑作種子配布		392世帯
	酪農支援	酪農家収入向上支援		147世帯

フィリピン			実施場所	受益者
洪水被災者支援	生活物資配布		マニラ首都圏および周辺地域	5,814世帯
台風被災者支援	生活物資配布		ミンダナオ島	600世帯

日本			実施場所	受益者
東北復興支援	生計支援	仮設店舗支援・中小企業診断士派遣・女性の作業場支援など	宮城県南三陸町・岩手県大船渡市	370人
	漁協支援	漁具やテントなどの備品支援	宮城県南三陸町	1,548人
	子ども支援	運動場整備・高等学校備品支援・ミュージカル支援	宮城県気仙沼市	1,149人
	コミュニティ支援	課外講座開催・地域防災支援	宮城県南三陸町 岩手県陸前高田市・大船渡市	849人
		福島被災犬受け入れ	栃木県那須町	N/A
	6次産業化支援		宮城県気仙沼市	N/A
地域活性化	災害救助犬育成・捨て犬保護・観光振興など		広島県神石高原町	N/A

モンゴル			実施場所	受益者
教育・子ども支援	貧困家庭の子どもの自立支援		ウランバートル市	4人

受益者数の算出について：村でのインフラ整備など、事業実施地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。

ASIA

SRI LANKA
生計支援
パッケージ
配布の例

働き、自立して生きる。
そんな日常を届けたい。

内戦後、故郷に帰ったものの仕事も家もない帰還民。
彼らが働き自立できるよう一軒一軒話を聞き
家族構成や前職に合わせた生計支援パッケージを配布しています。

小規模ビジネス
パッケージを受け取り
床屋を始めた
ランジットさん（65歳）

38年続けた床屋を再開

紛争の影響で避難を余儀なくされ、それまで営んできた床屋も閉店しました。やっと紛争が終わりふるさとに戻っても、資金を確保できず、床屋の再開を断念していました。しかし、PWJからの支援を受け、再び床屋を開くことができました。この道38年。床屋は私の天職です。まだ始めたばかりでお客さんは少ないですが、これからを見ていてください。今よりずっと繁盛しているはずです!

養鶏パッケージを
受け取った
ルクミさん

働くという あたらしい希望

「鶏の世話をしているときだけは、悲しかったことを忘れられる。大学生になる孫に卵を見せることが目標だよ。」ルクミさんは夫と息子を内戦で亡くし、売店を営む娘の仕送りを頼りに、今は1人で暮らしています。深く傷ついた彼女を支援するため、力作業の少ない養鶏パッケージを配布。鳥小屋は、近所の人びとの協力で建てられました。

SRI LANKA スリランカ

帰還した故郷で安心して暮らせるように。

≪ 課題 ≫ 26年間の内戦が終了した後、人びとは故郷への帰還を始めましたが、彼らを待ち受けていたのは、荒れ果てた土地と、家も仕事もない厳しい現実でした。

≪ 活動報告 ≫ 帰還した人びとの再定住を支援するため、東部では、溜池8ヵ所の整備と拡張を行ったほか、農業組合を対象に、農業研修と種子の配布を実施しました。また、酪農組合を通して酪農研修や物資の提供を行い、生計の改善を支援しました。北部では、414の帰還民世帯を対象に仮設住宅とトイレを建設し、103世帯に生計支援パッケージを配布しました。

PHILIPPINES フィリピン

現地と力を合わせ、台風被害からの復興を。

≪ 課題 ≫ 2012年8月、台風とその後の豪雨により、マニラ首都圏および近郊地域で大規模な洪水が発生しました。また、12月には大型の台風が南部のミンダナオ島を直撃し、広範囲に渡って洪水や土砂崩れを引き起こしました。

≪ 活動報告 ≫ 被災地域の合計6,414世帯を対象に、食糧と生活物資を配布しました。対象世帯の選定や物資の配布については、現地のパートナー団体CDRC（Citizens' Disaster Response Center）と協力することで、より迅速な支援が可能となりました。

EAST TIMOR 東ティモール

コーヒー作りを通して、豊かな生活を。

≪ 課題 ≫ 2002年に独立したばかりの東ティモールでは、食物をはじめとする多くの物資を輸入に頼り、国の基盤も脆弱です。コーヒーは唯一の換金作物であり、国民の4人に1人がコーヒー生産者と言われていますが、品質に対する意識が低く作った豆も中間業者に安く買いたたかれてしまい、貧困から抜け出せない人びとが多くいます。

≪ 活動報告 ≫ こうした生産者の経済的自立を支えるため、2003年から、コーヒー技術支援を行い、日本国内で販売しています。2012年度は520世帯の生産者が活動に賛同し、収穫量も例年以上の180トンとなりました。世帯数、生産量の拡大を通して、生産者の収入向上・経済的自立をこれまで以上にサポートすることができました。

MONGOLIA モンゴル

貧困家庭の子どものための保護施設を支援しています。2012年にサポートした子どものうち、1人はセンターを出て独立することができました。

2012 ANNUAL REPORT　中東

MIDDLE EAST

IRAQ
小学校
改築の例

もっと勉強したい。
その真っすぐな夢を叶えたい。

治安が安定しないイラク。子どもたちの学習環境をよくするために、
老朽化した小学校の改築支援を行っています。

老朽化した学校

改築工事後

マジィード校長先生より

人びとの心に
響いた日本の支援

ハンダ小学校は、人口増加の一途をたどるアルビル市内にあります。教室不足のため、入学希望者320人のうち200人の入学を拒否せざるを得ませんでした。ある日のニュースで日本に未曽有の大震災が起きたことを知りました。しかし、そのたった2ヵ月後にPWJスタッフが学校を訪れて、『支援を開始できる』と伝えてくれました。わたしはショックを隠せませんでした。日本は大震災の被害で危機的な状態にあるにもかかわらず、他国のことを忘れないで支援をしようとしてくれていることに驚いたからです。わたしは毎日モスクで祈りをささげ、皆にこの話を伝えました。話を聞いた誰もが日本への感謝と尊敬の意を示していました。

IRAQ/SYRIA　イラク／シリア

イラク小学校改築支援
子どもたちに学びの場を。

≪ 課題 ≫ イラクのクルド人自治区では、2003年にイラク戦争が終わった後も、クルド政府の予算はいまなお不足しており、人口の急激な増加に対応できず、子どもたちの教育環境が整っていません。天井に穴が開いた老朽化した校舎で、多くの子どもたちが勉強しています。

≪ 活動報告 ≫ 2011年6月に始めたアルビル州での小学校7校の改築が2012年3月末に完成し、1,439人の子どもたちが安心して学校に通えるようになりました。さらに2012年5月からは、イラク北部3郡で小学校7校の改築事業を開始し、2013年5月の完成をめざしています。

改築した小学校の数

シリア難民支援
増えつづける難民に安心を届けたい。

≪ 課題 ≫ イラクのドミズ難民キャンプでは、激しい内戦が続くシリアの戦禍を逃れた難民約3万5千人が暮らしています。今も一日に数百人の難民が流入しています。急増する難民への対応は困難を極め、食糧の配布や、衛生環境の整備など、生活に不可欠な支援が緊急に必要とされています。

≪ 活動報告 ≫ シリア難民約10,974世帯を対象に、故郷に戻れるまでのキャンプでの暮らしが、少しでも快適になるよう、補助食糧・衛生用品・灯油などの生活物資を配布しました。

AFGHANISTAN　アフガニスタン

2003年から、慢性的な水不足の解消を目的とした水資源調査を行いました。現在、収集したデータを解析し、有効活用できるように取りまとめ作業を実施しています。

CARIBBEAN SEA

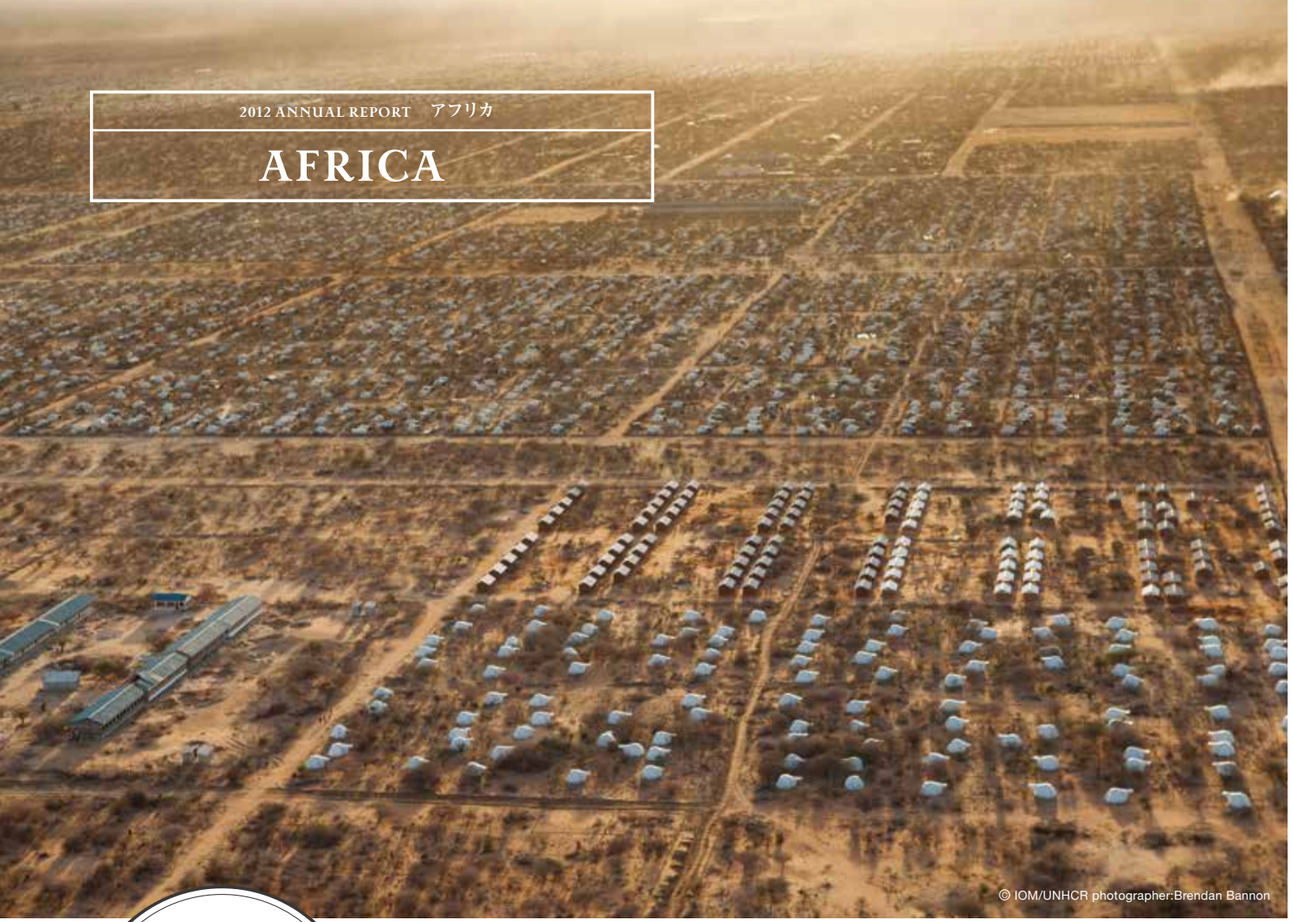
HAITI　ハイチ

大地震から2年。
もう一度学べる場所をつくりたい。

≪ 課題 ≫ 2010年1月12日に起きた大地震で、首都にある学校の約80%が被害を受けました。また、震災前から就学率が約50%にとどまっていたハイチでは、この震災後、学校に通う生徒がより一層減っていました。

≪ 活動報告 ≫ 2012年には、学校6校を対象に、仮設教室・トイレ・教員室などを各校のニーズに合わせて建設し、学校備品も提供しました。地域住民や親・教員・生徒による「学校支援委員会」を各校で立ち上げ、彼らの主導による効果的な学校運営の継続が可能となるよう、住民参加型で事業を進めました。さらに「キャパシティ・ビルディング講座」「心理社会サポート講座」「保健衛生向上講座」「防災講座」などソフト面での支援も実施しました。これにより、1,416人の子どもが安心して勉強できる環境を提供しました。

AFRICA



© IOM/UNHCR photographer:Brendan Bannon

KENYA

ダダーブ
難民キャンプ
の例

不安なく眠れるよう、安心をつくりたい。

治安が悪く強盗などの被害も深刻な状況のダダーブ難民キャンプ。
安心して過ごせる仮設住宅を建設しました。

BEFORE

木の枝をくみ上げ、ビニールシートで
補強した住居に暮らしています。

AFTER

雨漏りも床のぬかるみもない、衛生的な住環境になりました。

≪ 仮設住宅に暮らす女性 ≫
テントでの暮らしは、着替えにも困り、強盗も心配でした。一番ほっとしたのは、ドアがあって鍵がかけられることです。夜も安心して眠ることができます。

≪ 難民のセクションリーダー ≫
このキャンプに住む誰もが、仮設住宅を必要としている。しかし、治安を理由に撤退していった団体も多く、自分たちのことなんて忘れられてしまっているのかな、と思うこともよくある。PWJにはどうか少しでも多くの仮設住宅を建ててほしい。

KENYA ケニア

人びとが安心して眠れる家を。

≪ 課題 ≫ 2011年の大干ばつとソマリア国内の治安悪化によって、約15万人のソマリア難民が新たにケニアに流入しました。増え続ける難民に支援のスピードは追いつかず、多くの難民は強い日差しと風雨にさらされて傷んだテントに住んでいます。

≪ 活動報告 ≫ 過酷なダダーブ難民キャンプの生活環境を改善するため、難民を対象に284棟の仮設住宅を建設しました。

NIGER ニジェール

家族が自立できるよう働く機会をつくる。

≪ 課題 ≫ 長引く乾季と不規則な降雨のため農産物の収穫が激減し、2012年も食糧価格の高騰が続き、サヘル地域一帯では1,900万人、このうちニジェールでは640万人が食糧不足の状況に陥りました。

≪ 活動報告 ≫ フィレンゲ郡における調査で、食糧の価格は上昇しているものの、入手は可能なことを確認しました。そこで、地域住民を土地整備の作業に参加させ、支払った労賃で食糧を購入できるようにする「キャッシュ・フォー・ワーク」方式の支援を、2012年8月から11月まで4,266世帯を対象に実施しました。住民は現金収入を得て、必要な食糧の購入などに充てることができました。

SOUTH SUDAN 南スーダン

「一刻も早く水が欲しい」という人びとに井戸を。

≪ 課題 ≫ ジョングレイ州には安全な水にアクセスできず、不衛生な暮らしを余儀なくされている人びとがたくさんいます。汚く濁った川の水を飲むことで、老若男女を問わず感染症に悩まされており、特に幼児の多くが下痢で命を落としています。

≪ 活動報告 ≫ 地域住民が安全な水を得られるよう、ジョングレイ州で22本の井戸を建設し、2006年以降に建設した井戸は合計で189本になりました。また、衛生環境を整えるため、公共トイレを2棟建設しました。さらに、洪水で大きな被害を受けたアユッド郡の避難民に、蚊帳、ビニールシート、浄水タブレット等の緊急物資を、ピボール郡では、反政府勢力の攻撃から避難した住民を対象に、食糧を配布しました。

JAPAN

JAPAN

ふるさと学習会の1日
「南三陸の魚貝で鍋を作ろう!」編

被災地の人びとと共に、未来の町を育てていく。

東日本大震災から2年、
子どもたちにふるさとを好きになってもらい、一緒に育ってほしい。
そんな思いで、地元の人びとと連携したふるさと学習会を開催しています。

1 先生のレクチャーの後、ホタテの殻開けにチャレンジ! 小さな手で一生懸命です。

2 本物の包丁を持って魚をさばきます。

3 鍋の具を煮込んでいる間、先生によるマグロの解体ショーも行われました。

4 自分たちでつくったお鍋は格別です! 「うまーい!」「おいしーい!」と声があがりました。

5 約30人の子どもたちが参加してくれました!

東北駐在スタッフ
奥村より

もう一つのインパクト

後日、この講座を担当した魚屋さん(先生)にお礼を伝えると、ふるさと学習会をきっかけにお客さんが増えたと教えてくださいました。参加した子どもたちが、またあの美味しい魚が食べたいと言って家族で来てくれるそうなのです。
ふるさと学習会を通じて学びと遊びの機会を提供するのみならず、子どもたちを介して地域の大人たちや商店のつながりを再生するきっかけづくりとなる。これこそがふるさと学習会が生み出したかったもう一つのインパクトです。

東北

震災から2年。経験を踏まえた地域づくりを。

≪ 課題 ≫ 2011年3月に発生した東日本大震災から2年。東北の被災地では、海岸部の施設や災害公営住宅など、公共インフラを整備し、地域を復興していくための努力がいまなお続けられており、今後も継続的な支援が必要とされています。

≪ 活動報告 ≫ 岩手県大船渡市、陸前高田市においては、地元の商工会議所を通じて、仮設商店街の事業再開を支援しました。また、陸前高田市では、自主防災会を対象に、今回の震災の経験を踏まえ地域の防災力を向上する取り組みをサポートしました。
宮城県南三陸町では、地元の漁業協同組合を通じての経済復興支援や、子どもを対象とした課外講座「ふるさと学習会」を実施しました。同県気仙沼市においては、パートナー団体であるピースネイチャーラボと協働で、食と自然に着目した6次産業化支援事業を開始し、新たな産業構築に乗り出しました。

広島／神石高原

捨てられる犬を一頭でも守りたい。

2010年秋に開始した災害救助犬の訓練を続けるとともに、専門家の定期的な指導の下でレスキュー要員の育成に取り組みました。また、「セラピー犬」を連れて高齢者の福祉施設を訪れる活動も続けました。
捨て犬や野犬の殺処分が全国で年間約5万頭にのぼる現状を改善するために、神石高原町と協力し、町内で発生する捨て犬の保護と里親探しをしています。2013年1月までに計33頭を保護し、うち10頭を元の飼い主に返還、または新たな飼い主に譲渡しました。
また、町から運営委託を受けたドッグランを大幅に拡充し、イベントなどを通じて集客を図ったほか、付属する施設でドッグホテルやドッグカフェの営業も手がけました。

広島／尾道

カタログ販売事業「PWJ特選マルシェ」では、産地直送の農海産物を含む、健康と環境に配慮した食品を販売。前年度に続き、震災支援の一環として福島県産の果物の販売にも取り組みました。

学校プロジェクト

将来を担う子どもたちを対象に、世界各国の現状やPWJの支援活動の実態などを伝える国際理解教育の活動「学校プロジェクト」にも積極的に取り組み、修学旅行生の東京事務所への受け入れや、学校での講演などを行いました。

いろいろな支援の方法

寄付をする

≪ピースサポーター≫

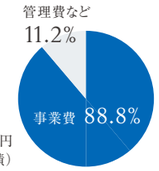
ピースサポーターは、毎月の継続的なご寄付によって、災害の被災者や紛争による難民に寄り添い、長期的に支えていただくご支援のプログラムです。年次報告書と季刊ニュースレターをお送りします。

≪寄付控除の対象です ≫

PWJは「認定NPO法人」として国税庁に認可されています。これによりPWJへのご寄付は寄付金の税金控除の対象となります。※正会員会費は対象外です。

ご寄付は責任を持って使います。

皆さまからのご寄付は、世界中の苦しんでいる人びとのために、大切に使わせていただいております。2012年度は、全収入のうち、88.8%を事業費に11.2%を管理費に使わせていただきました。



当期支出合計1,320,032,988円
（2012年度実績）

ボランティアをする

現在のボランティア登録数は約140名で、学生・社会人・主婦・シニア世代など実にさまざまなバックグラウンドをお持ちの方々で構成されています。皆さんのご都合に合わせて、東京事務所で作業をしたり、各種イベントに参加したりしながら、和気あいあいと楽しく活動しています。

本やハガキで支援する

≪ブックキフ≫ ブックキフ 検索

ブックオフコーポレーションの協力により、不要になった中古本やCDを無料集荷の上、買取金額がPWJに寄付されます。

≪ハガキフ≫

書き損じハガキや未使用切手をPWJに直接お送りください。

PWJを支える仲間

皆さまからの温かい思いにPWJは支えられています。

人と人が繋がる場

PWJのボランティアでは作業の意図やNPOの仕組みを知ることができ、さらには素敵な方々との出会いもあります。PWJには誰でも歓迎する雰囲気があり、ボランティアを通して、人と人とを繋いでくれます。私も紹介された一人ですが、これからもそんな場であって欲しいと思います!

ボランティア 松下 泰樹さん（大学3年生）

設立当初からPWJを応援

1996年の設立当初からPWJを支援しています。きちんと報告してくれることと、スタッフが真摯に活動に取り組む姿が印象的でした。みんなで応援できれば大きな力になると思い、サポーターになりました。報告書やニュースレターを通じて、世界各地で困っている子どもたちの支援になっていると実感できています。PWJを通じて世界に幸せの種をまいて、それがいつか自分にも巡ってくる。そんな思いがあって、スタッフや活動を応援しています。

ピースサポーター 安藤 槙千佑さん

デザインで貢献!

経験を活かした支援をしたいと思っていたところ、ピースウィンズからお話をいただき、プロボノ参加させていただいています。小さいことでも、それぞれができる事をおすそ分けしていけば、大きな力になると思います。

プロボノ 種村 京子さん（デザイナー） 各種報告書のデザインを無償でご協力いただきました。

※プロボノとは、各分野の専門家が、職業上持っている知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動です。

メディア掲載

新聞、テレビ、ラジオ、雑誌で紹介されました。

2月 ・NHK総合ニュース・釜石新聞でPWJ主催の講演会が紹介
・東京FM「ジブリ汗まみれ」に代表大西が出演
・テレビ東京「地球VOCE」でスリランカの活動が紹介
3月 ・FMヨコハマ「Yokohama social Cafe」にスタッフ齋藤が出演
・時事通信・北海道新聞で南スーダンの活動が紹介
スタジオジブリ発行「熱風」3月号に代表大西の対談が掲載
・BSジャパン「地球VOCEスペシャル」でPWJの活動が紹介
4月 ・NHK「おはよう日本」で「南三陸町のみんなに写真集を届けようプロジェクト」が紹介
・読売新聞に東北駐在スタッフ西城が掲載
・三陸新報に東北の活動が掲載
6月 ・The Japan Timesにフェアトレード事業が掲載
・25ans（ヴァンサンカン）8月号にPWJの活動が紹介
7月 ・朝日新聞「オピニオン」に南スーダン駐在スタッフ石川が掲載
8月 ・東京新聞に東北の活動「ふるさと学習会」が掲載
10月 ・日本経済新聞に東北の活動「ふるさと学習会」が掲載
11月 ・読売新聞に東ティモールフェアトレードコーヒーが掲載
・岐阜新聞・日本経済新聞・産経新聞に「被災地の子どもたちによるミュージカル」が掲載
12月 ・NHK「クローズアップ現代」でPWJの活動が紹介
1月 ・時事通信にハイチ担当スタッフ山元のインタビューが掲載

企業や団体の皆さまからのご支援

PWJでは設立当時より企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視してきました。
昨今では、企業の本業を活かしたご協力に関する問い合わせを多くいただいています。
公共サービスの提供において民間セクターの担う役割が一層高まる機運の中、
それぞれの特色とリソースを活かした協業について、さらに可能性を広げていきたいと考えています。

企業の専門性を活かす

UBS 2012年9月より4ヵ月間、UBS証券株式会社よりシステムエンジニア1名の出向を受け入れ、PWJのデータベースのクラウド化にご尽力いただき、災害に備えた基盤整備を行いました。

Deloitte. トーマツ 2012年11月より4ヵ月間、デロイト トーマツ コンサルティング株式会社からコンサルタント5名のプロボノ支援を受けました。本業である経営コンサルティング業務を活かして、PWJのファンドレイズ戦略策定に携わっていただきました。

本業を通じた子ども向けの講座を開催

宮城県南三陸町「ふるさと学習会」では、子どもたちに町のことや町の外のことを楽しく学ぶ場を提供しています。地域コミュニティの活性化を目的として開始され、2012年はのべ50回以上の講座開催となりました。多くの企業の皆さまのご協力により、本業を活かした多様な講座を提供いただきました。

「ふしぎ探検隊」化学実験教室
協力:三井化学株式会社

「アメフト選手とスーパー鬼ごっこ」
協力:富士通株式会社

「ダイヤモンドの旅」講座
協力:Forevermark株式会社

「南三陸の魚、世界へ!」講座
協力:みずほ証券株式会社

2012年度の高額寄付企業・団体

※20万円以上／社員や顧客などの寄付を集約・代行して入金された金額を含みます。

アサップネットワーク株式会社／アド・コムグループ株式会社／アピデ株式会社／アンダーワークス株式会社／イヴ・サンローラン・ボーテ（日本ロレアル）／株式会社エクスパンド／株式会社エニシル／NGOサポート募金（運営:JANIC）／株式会社NTTデータ／青年団体 ohana／ギフコ株式会社／KIEHL'S SINCE 1851（キールズ）／キユーピーグループマッチングギフト「QP eace」／Sullivan & Cromwell LLP／JWord株式会社／JX日鉱日石エネルギー株式会社／シャディ株式会社／一般財団法人ジャスト・ギビング・ジャパン／高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン実行委員会／特定非営利活動法人チャリティ・プラットフォーム／一般社団法人Think the Earth／TENSEISHINBIKAI 岡田茂吉総合研究所／東栄産業株式会社／東亜工業株式会社・浦安工場／日興AM従業員チャリティプログラム（日興アセットマネジメント株式会社）／株式会社日本ワークシステム／バカラ／特定非営利活動法人パブリックリソースセンター／株式会社ヒロコーヒー／フィアット クライスラー ジャパン／Forevermark株式会社／株式会社藤田商店／株式会社プレーリードッグ／公益財団法人毎日新聞東京社会事業団／maneo株式会社／丸中製菓株式会社／みずほ証券株式会社／三菱電機関連労働組合連合会／三菱樹脂株式会社／三井化学株式会社／株式会社メディコム／Yahoo!ボランティア／株式会社ユナイテッドアローズ／株式会社有隣堂／UBS証券株式会社／リコージャパン株式会社／株式会社ロワール／株式会社ワンダーシティ（50音順）

PWJのフェアトレード事業

2003年より東ティモールにてコーヒー生産者の支援を本格化。
当初10世帯だった参加農家は、約520世帯に増え、現在も住民の自立を促進しています。

更なる品質向上に向けて

大豊作だった2012年度のコーヒー豆をいかに品質を落とさず日本に持ってくる事が出来るかが最大の課題でした。豆の水分値管理を特に徹底し特殊な穀物用袋を導入し、きれいな緑の豆のまま日本に届けることができました。

祝! 84.5点

専門家に味のチェックをしていただいた結果、84.5点という高得点※をいただきました。甘みが強く、明るくきれいな酸味のある東ティモール産の良い部分が2012年の豆にはよく出ているそうです。※80点以上はスペシャルティコーヒーと言われ高品質の証です。

オーダーメイド型 オリジナルラベルを展開

今年は様々な企業やショップ・レストランのロゴ入りコーヒーをオーダーメイドで展開しました。名刺代わりに名前の入ったドリップバッグコーヒーを使いたい、お店の記念日にお客様に差し上げたいなど嬉しいお声掛けをいただきました。

ピースコーヒーができるまで

① 真っ赤に熟したコーヒーの実を手摘みします。

② 選別した実の果肉を機械で取り除きます。

③ 水分値が12%になるまで天日で乾燥させます。

④ 脱穀した豆を手選別し、欠陥豆を取り除きます。

⑤ 麻袋に詰められ、いよいよ日本に出港です。

⑥ 皆さまのお手元にお届けします。

東ティモール独立 10周年

2012年は東ティモールが独立してから10年という節目の年でした。PWJは他団体と連携し、文化や歴史を考える「東ティモール独立10周年を記念する会」というイベントを実施し独立10周年を記念するTシャツやオリジナルラベルコーヒーなども作成しました。

≪ フェアトレード部スタッフより ≫

PWJフェアトレード部ではコーヒーの栽培から加工、輸出入、販売までのすべての段階に携わっています。NPOだからという甘えは通用せず、機会がある度に書籍やセミナー参加を通じてコーヒーについての勉強も行い品質向上に努めています。私たちだからこそ知っている生産者の情報と品質を掲げ、生産者の皆さんの笑顔と期待を背負い、東ティモールという高品質な豆が育つ小さな生産国を世界に羽ばたかせていきます。

※フェアトレードとは、経済的、社会的に立場の弱い生産者に対して通常の国際市場価格よりも高めに設定した価格で継続的に農産物や手工芸品などを取引し、発展途上国の自立を促すことが目的。取引価格以外にも、生産者の労働条件や環境にも配慮した取り組みが求められます。

PWJについて

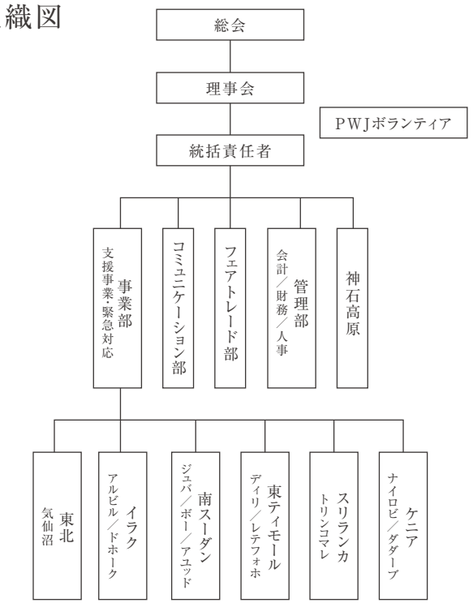
活動年表

1996	2	ピースウィンズ・ジャパン設立
	3	イラク北部クルド人自治区で支援事業を開始
	8	モンゴルで支援事業を開始
1997	11	インドネシアで支援事業を開始
1998	6	朝鮮民主主義人民共和国で緊急食糧支援
1999	4	旧ユーゴスラビア・コソボ自治州で緊急支援（～2000年3月）
	9	中国雲南省チベット人自治州で支援事業を開始（～2007年1月）
	10	東ティモールで支援事業を開始 NPO法人格を取得
2001	1	インド西部震災支援（～2001年9月）
	4	シエラレオネで支援事業を開始（～2007年3月）
	11	アフガニスタンで支援事業を開始
	12	アフガニスタン復興NGO東京会議を開催
2003	4	イラク・クルド人自治区外に支援を拡大
	12	イラン・バム震災緊急支援（～2006年2月）
2004	3	リベリアで支援事業を開始（～2010年2月）
	10	新潟県中越地震緊急支援（～2004年11月）
	12	インドネシア・スマトラ島沖地震・津波緊急支援（～2006年3月）
2005	3	静岡県袋井市と「災害時の支援協定」を締結
	9	アメリカ・ハリケーン被災者緊急支援
	10	パキスタン北部地震緊急支援（～2006年5月）
2006	3	東京都葛飾区と「災害時の支援協定」を締結
	5	東京都世田谷区と「災害時の支援協定」を締結
	8	南スーダンで支援事業を開始
2007	7	新潟県中越沖地震緊急支援（～2009年8月）
	11	尾道事務所開設
2008	5	ミャンマー・サイクロン被災者緊急支援（～2009年8月）
2009	7	スリランカで支援事業を開始
	10	インドネシア・スマトラ島西部沖地震 被災者緊急支援（～2010年12月）
2010	1	ハイチ地震緊急支援を開始（～2012年7月）
	3	国税庁により「認定NPO法人」に認定
	11	広島県神石高原町にて災害救助犬の育成事業を開始
2011	3	東日本大震災被災者支援を開始
	4	広島県神石高原町に「災害救助犬訓練センター」を開設
	10	トルコ東部地震被災者緊急支援
	11	タイ洪水被災者緊急支援
2012	2	ケニアでソマリア難民支援を開始
	8	フィリピン洪水緊急支援 ニジェール食糧危機緊急支援
	11	イラクでシリア難民支援を開始
	12	フィリピン台風ボーファ緊急支援

団体概要

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
事務局有給職員数	43人
役員 代表理事	大西　健丞
理事	木村　町子
	三宅　登志子
	石井　宏明
	桑名　恵
	山本　理夏
監事	清水　雄二

組織図



ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

ミッション

- 紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。
- 社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。
- 支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。
- 支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。
- 援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

2012年度 会計報告

収支計算書 2012年2月1日～2013年1月31日

経常収入の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
会費収入	46,460,350	2.3%
一般寄付金収入	48,316,355	2.4%
特定目的寄付金収入 ①	87,475,382	4.3%
物品・現物等寄付収入	9,446,489	0.5%
政府からの補助金収入	147,714,784	7.3%
国際機関からの補助金収入	4,973,793	0.2%
民間助成金収入 ②	855,997,742	42.5%
業務受託収入	7,045,529	0.3%
フェアトレード事業収入	68,651,491	3.4%
その他事業収入	4,498,301	0.2%
その他収入（保証金返還収入、受取利息、雑収入等）	8,492,841	0.4%
小計	1,289,073,057	
その他の事業		
収入	23,570,813	1.2%
当期収入合計	1,312,643,870	
前期からの繰越金 ③	702,656,272	35.0%
経常収入の部合計	2,015,300,142	

① 特定目的寄付金収入の内訳

イラク事業	2,023,776
モンゴル事業	80,100
東ティモール事業	956,631
アフガニスタン事業	78,000
ケニア事業	164,912
東日本大震災支援事業	80,147,225
南スーダン事業	1,488,403
スリランカ事業	87,896
ハイチ事業	89,724
災害救助犬育成事業	909,240
タイ事業	15,000
ニジェール事業	27,500
フィリピン事業	363,975
シリア難民支援事業	1,043,000
合計	87,475,382

② 2012年度に補助金、助成金、業務委託を受けた主な団体
特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム（JPF）
MercyCorps
外務省
JTIFoundation
広島県神石高原町
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）
仙養ヶ原観光開発組合
株式会社地域計画工房

③ 前期からの繰越金・次期への繰越金には、
補助金、助成金、業務委託、特定目的寄付金等の未使用分を含みます。

経常支出の部	円	構成比
特定非営利活動に係る事業		
緊急人道支援・復興支援活動		
イラク事業	126,195,499	6.3%
アフガニスタン事業	229,229	0.0%
南スーダン事業	124,507,414	6.2%
スリランカ事業	95,867,812	4.8%
ハイチ事業	63,331,311	3.1%
ケニア事業	102,220,073	5.1%
ニジェール事業	8,731,077	0.4%
フィリピン事業	15,647,145	0.8%
トルコ事業	210,000	0.0%
タイ事業	210,000	0.0%
レスキュー犬・トレーナー育成事業	55,014,609	2.7%
東日本大震災支援事業	404,296,217	20.1%
事業共通費	21,067,268	1.0%
開発支援活動		
東ティモール事業	9,665,697	0.5%
フェアトレード事業	94,997,209	4.7%
モンゴル事業	722,697	0.0%
地域再生パイロット事業	8,439,774	0.4%
広報並びに募金活動	40,907,235	2.0%
事業費計	1,172,260,266	
管理費	58,187,864	2.9%
その他支出（固定資産購入支出、助成金返還額など）	60,882,219	3.0%
小計	1,291,330,349	
その他の事業		
支出	28,702,639	1.4%
当期支出合計	1,320,032,988	
次期への繰越金 ③	695,267,154	34.6%
経常支出の部合計	2,015,300,142	

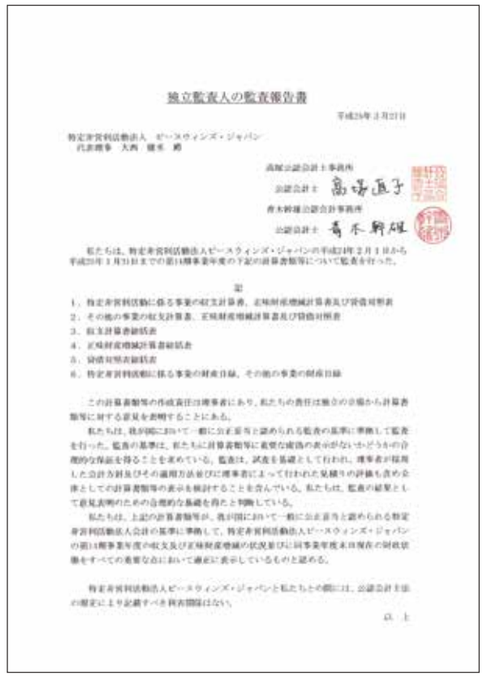
貸借対照表 2013年1月31日現在

単位:円

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅰ 資産の部				
1.流動資産	現金預金	580,119,867	0	580,119,867
	海外現金預金	65,122,636	0	65,122,636
	売掛金	2,665,194	512,139	3,177,333
	商品	26,452,836	1,743,509	28,196,345
	未収入金	4,167,302	493,538	4,660,840
	「その他の事業会計」立替金	42,479,323	0	42,479,323
	立替金	2,379,211	0	2,379,211
	前払金	17,457,087	0	17,457,087
	仮払金	50,465,303	0	50,465,303
	前払費用	646,000	0	646,000
	流動資産合計	791,954,759	2,749,186	752,224,622※
2.固定資産	建物	11,444,268	0	11,444,268
	建物付属設備	7,545,249	688,591	8,233,840
	構築物	5,353,910	0	5,353,910
	車両運搬具	19,292,808	0	19,292,808
	工具器具備品	4,451,013	0	4,451,013
	機械装置	674,483	0	674,483
	リース資産	10,890,145	0	10,890,145
	建設仮勘定	43,945,977	0	43,945,977
	電話加入権	385,392	0	385,392
	商標権	792,950	0	792,950
	ソフトウェア	899,028	0	899,028
	敷金・保証金	5,339,930	0	5,339,930
	固定資産合計	111,015,153	688,591	111,703,744
資産の部合計		902,969,912	3,437,777	863,928,366※

科目		特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合計
Ⅱ 負債の部				
1.流動負債	未払金	10,567,547	0	10,567,547
	未払法人税等	0	256,900	256,900
	預り金	6,733,596	0	6,733,596
	仮受金	51,000	0	51,000
	「特定非営利活動に係る事業会計」仮受金	0	42,479,323	42,479,323
	流動負債合計	17,352,143	42,736,223	17,609,043※
2.固定負債	退職給与引当金	7,026,413	0	7,026,413
	リース債務	11,152,080	0	11,152,080
	固定負債合計	18,178,493	0	18,178,493
	負債の部合計	35,530,636	42,736,223	35,787,536※
Ⅲ 正味財産の部				
正味財産		867,439,276	△39,298,446	828,140,830
［うち当期正味財産増加額］		［98,323,183］	［△18,948,087］	［79,375,096］
正味財産の部合計		867,439,276	△39,298,446	828,140,830
負債及び正味財産の部合計		902,969,912	3,437,777	863,928,366※

※内部取引42,479,323を差引いています。



独立監査人の監査報告書

平成25年3月27日

特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
代表理事 大西 健丞 殿

高塚公認会計士事務所
公認会計士 高塚直子

青木幹雄公認会計事務所
公認会計士 青木幹雄

私たちは、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの平成24年2月1日から平成25年1月31日までの第13期事業年度の下記の計算書類等について監査を行った。

記

1．特定非営利活動に係る事業の収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2．その他の事業の収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
3．収支計算書総括表
4．正味財産増減計算書総括表
5．貸借対照表総括表
6．特定非営利活動に係る事業の財産目録、その他の事業の財産目録

この計算書類等の作成責任は理事者にあり、私たちの責任は独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私たちに計算書類等に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類等の表示を検討することを含んでいる。私たちは、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

私たちは、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる特定非営利活動法人会計の基準に準拠して、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンの第13期事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示していると認める。

特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンと私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

PWJは、高塚公認会計士事務所・
青木幹雄公認会計事務所による外部監査を受けております。